

令和8年度第3回三重県観光誘客推進会議 概要

- 1 開催日時：令和8年6月29日（月）16時20分から16時30分まで
- 2 議事概要：以下のとおり

（塩野観光部長）

- ・令和8年度第3回目の県観光誘客推進会議を開催する。
- ・本日の会議では、「みえインバウンド誘客計画」の策定について協議いただく。
- ・なお、議題について事務局からの説明が終わった後、質問や意見をまとめていただく時間を設ける。
- ・それでは、事務局から「みえインバウンド誘客計画最終案」について説明を行う。

※主に「資料1「みえインバウンド誘客計画最終案」概要版」に基づき、事務局（郡観光部次長）から説明。

（塩野観光部長）

- ・質問や意見等はあるか。

（西田地域連携・交通部長）

- ・インバウンドの誘客ということに関しては、外国人旅行者がストレスなく観光地に移動ができるよう、交通アクセスの整備が重要だと認識をしており、地域連携・交通部としても市町や交通事業者と連携をしながら、二次交通の充実や公共交通の利便性向上を図っていくこととしている。
- ・また、将来のリニア中央新幹線の開業を見据えながら、ゴールデンルートを周遊する旅行者の皆さんを取り込む観点からも、観光交流の拡大に向けた交通ネットワークの形成ということについて検討していきたいと考えている。
- ・引き続き、観光部と連携しながら、交通アクセスの整備を推進していきたいと考えている。

（枅屋農林水産部長）

- ・農林水産部では、重点市場であるアジア圏の台湾とタイなどをターゲットに、伊勢茶やミカンなどの輸出促進に取り組むとともに、三重ならではの美しい自然や歴史、文化など農山漁村の地域資源を生かした農泊コンテンツの造成に取り組んでいきたいと考えている。
- ・農林水産部も、観光部あるいは雇用経済部などと連携し、観光・食・物産が一体となったプロモーションを進めることで、三重県の認知度向上、あるいはインバウンドの誘客促進を図っていきたいと考えている。

（野呂副知事）

- ・先ほども観光連盟の総会に知事と出席させていただいた。地域連携・交通部、農林水産部からも取り組んでいくという話があったが、当然ながら地域や企業に対しても、県のリーダーシップで取り組んでいただくことを非常に期待している。
- ・当然ながら観光に対する期待は非常に高いので、この計画をもとにしっかり取り組んでもらいたい。

(塩野観光部長)

- ・それでは、お諮りする。「みえインバウンド誘客計画」について、こちらの案のとおり策定をしてもよろしいか。

(全体)

- ・異議なし

(塩野観光部長)

- ・それでは、こちらの内容で決定とする。
- ・最後に知事からご発言を。

(一見知事)

- ・この度、三重県のインバウンド施策の海図が完成した。今後はこれを羅針盤として、三重県観光丸が適切な航海をできるよう取り組んでいく必要がある。
- ・令和7年の国勢調査結果が示すとおり、国全体で人口減少が進んでいる。このトレンドは不可逆的であり、観光関係に大きな影響を及ぼす。
- ・一つは、定住人口の減少分を交流人口で補い、地域経済を活性化する必要があること。特に人口減少が激しい地域では観光振興がより重要となる。
- ・もう一つは、インバウンドを新たな開拓市場として振興しなければ、県の観光産業が行き詰まるということ。人口減少は待ったなしであり、観光振興のスピードを加速させる必要がある。
- ・今回の計画目標値には、人口減少と宿泊施設減少のトレンドを反映した腰だめでない数字を盛り込んだ。
- ・指示事項は二点である。第一に、交通アクセス・宿泊施設・情報提供という観光インフラの整備とマーケティングの推進である。重点市場が定まり、インドネシアやインドも将来の重点市場となり得る。外国人は県単位ではなく一定の地域を見たいという思いで来訪するため、三重県は関西国際空港、中部国際空港の両空港からアクセスが可能なことから、それら空港を活用した周遊ルートの構築が鍵となる。
- ・第二に、観光は観光部だけでなく、食や自然、産業など各部局が連携して取り組むべき課題であるため、各部局には我が事感を持って計画の実施に当たってもらいたい。

(塩野観光部長)

- ・各部局におかれましては、知事指示事項を踏まえ、引き続き観光誘客に取り組んでいただきたい。
- ・これで第3回の三重県観光誘客推進会議を終了する。